

信頼される AI の基盤技術
2020 年度採択研究者

2021 年度 年次報告書

菅原 朔

国立情報学研究所コンテンツ科学研究系
助教

説明性の高い自然言語理解ベンチマークの構築

§ 1. 研究成果の概要

本研究課題は高い説明性を備えた自然言語理解のベンチマーク用データセットを構築することを目的とする。ここで説明性は正答のために具体的にどのような言語理解上の能力が必要になるかがそれぞれの問題で明示されていることを最低の要件としている。

最終的に高度な理解を評価可能にするデータセットを構築するためには、初期データとしてなるべく有用な質問を集めることが必要である。しかしクラウドソーシングにおいて大規模にデータを収集する際、単純な指示を出して依頼するだけでは品質の高い質問を集めることは困難である。そこで2021年度は、クラウドソーシングにおいてどのようなインターフェース・作問指示・報酬の仕組みが質問の良し悪しに寄与するかを明らかにし、今後効率的に高品質なデータを集めるための知見を蓄積することを目指した。最終的な成果は国際会議 the 59th Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics and the 11th International Joint Conference on Natural Language (ACL-IJCNLP 2021) に論文が採択され発表した(論文 1)。

【代表的な原著論文情報】

- 1) Nikita Nangia, Saku Sugawara, Harsh Trivedi, Alex Warstadt, Clara Vania, Samuel R. Bowman, “What Ingredients Make for an Effective Crowdsourcing Protocol for Difficult NLU Data Collection Tasks?”, *Proceedings of the 59th Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics and the 11th International Joint Conference on Natural Language Processing (Volume 1: Long Papers)*, pp.1221–1235, 2021.